

vol.45 神崎まさる市議会報告

活力に満ちた成田のまちづくりを目指して、神崎まさるは全力で取組んでいます！



成田空港の2つのプロジェクト

成田空港では、B滑走路の延伸、C滑走路新設、および深夜早朝時間帯における運用時間帯の拡大を柱とする「更なる機能強化」が国家プロジェクトとしてスタートしています。同時に旅客・貨物ターミナルやその他施設の再編プロジェクトである「新しい成田空港構想」について検討の深化が進められています。

●発着容量を50万回に拡大するためのプロジェクト（更なる機能強化）

- ①B滑走路を北側に1000m延伸
3500mのC滑走路を新たに整備
- ②滑走路別に異なる運用時間を採用する
「スライド運用」を導入し、空港全体の運用時間を5時～0時30分に拡大
- ③環境対策、地域共生策の充実

●『新しい成田空港』構想

旅客・貨物施設の老朽化への抜本的な対応および発着容量50万回化を見据え、滑走路以外の施設の刷新と大幅な能力向上、空港周辺の発展を目指したプロジェクト

- ①3つの旅客ターミナルを集約し新たにワンターミナルを建設

発行 / 政友クラブ 発行日 / 2025年8月
神崎まさる / 連絡先 〒286-0133 成田市吉倉886番地17
☎・FAX/0476-35-3808 E-mail : kanzaki_0616@yahoo.co.jp
携帯メール marshar.k.333@docomo.ne.jp



ホームページ



議会用



個人用

- ②新貨物地区を整備し航空物流機能を集約
- ③空港全体としての最適なアクセスの実現
- ④地域との一体的な発展を目指す取組み（エアポートシティ構想）

地域として目指すべきビジョンやゾーニングについて、6月12日の四者協議会において合意されました。更なる機能強化、新しい成田空港構想などのプロジェクトを総称した「第2の開港プロジェクト」も始動しました。今後、空港の拡張事業や『新しい成田空港』構想などの効果を周辺地域に最大限波及させるとともに、エアポートシティの実現により我が国の経済発展、国際競争力の強化にも寄与することが期待できます。また、国家プロジェクトとして取り組んでいる更なる機能強化は、用地の取得率が8割を超え、5月25日には着工式を執り行いました。



『まさる』から落下物について

航空機からの落下物事案は、開港後令和5年度までに163件報告されています。飛行コース直下の住民からは、今後離着が50万回に増えることにより、航空機からの落下物事案がさらに増えることを懸念しています。また、静寂となる夜間の航空機からの夜間騒音を評価できる指標の追加や隣接地域の防音対策の強化を求める声などがあります。

成田空港のさらなる機能強化を進めることはもちろんのこと、空港周辺の環境対策や交通渋滞対策に、交通ネットワークの強化も求められています。これからも騒音地域の声を届けてまいります。

公共交通計画推進事業

活性化協議会の構成員や市民の代表として、成田市長会・PTA連絡協議会や、国際医療福祉大学、日本大学の学生にも参加をいただき、課題の共有や見直しの方向性について検討しました。

遠山ルートについては、年間延べ人数・定期券利用人数が他のルートよりも多い一方、しもふさ循環ルートについては、路線延長が長く、1日の運行回数・年間延べ人数が他のルートの半分程度と少ない状況となっています。

また、しもふさ循環ルートは、駅やスーパーといった拠点まで遠回りで、便数自体も少ないとことから、これらの点を解消するようなことが求められています。特に、高齢者や子供の移動手段の確保を優先事項と位置付け検討を行った中で、今後の見直しの方向性として、**コミュニティバスの運行ルートの最適化と車両の小型化**の2つの方向性が示されました。これらを踏まえ、令和7年度は、交通事業者との協議・調整、地域住民の意見収集などを実施し、令和8年度中の実証運行に向けた検討・準備を進めています。

遠山地区の運賃と定期券代を比較すると、運賃はコミュニティバスが200円で、民間路線バスは500円台とおよそ2.5倍。また、高校生の通学定期では、コミュニティバスが1ヶ月3,000円に対し、民間路線バスでは1ヶ月15,000円から18,000円と5.6倍の開きがあり、コミュニティバスがかなり安価な料金設定になっています。これらは同じルートを運行しているバス事業者からもご意見をいただいており、民間ルートと競合している大きな課題となっています。

また、中・高生といった学生の移動課題を優先事項と位置付けて検討を行った中で「通勤や通学の需要に対応したルートや、バス便の維持・確保を求める声」があったほか、現行の運賃格差の課題に対しては、民業圧迫の解決策として、学生以外の一般利用者についてはコミュニティバス運賃の値上げを許容する意見もありました。

令和7年度は、運行ルート等の最適化について、交通事業者との協議・調整、地区住民の意見収集を図るとともに、市内全ルートも対象としたコミュニティバスの運賃見直しの検討などを予定しています。



運行路線	路線延長(km)	1日往復運行回数(回)	年間延べ乗客数(人)	うち定期利用実人数
大室循環ルート	39.8	6.5	31,565	2
遠山ルート	22	6	61,998	63
水掛ルート	22.4	5.5	21,968	4
豊住ルート	19.9	5	20,605	6
しもふさ循環ルート	50.1	2.3	11,670	15
津富浦ルート	28.2	4.5	19,373	1
北須賀ルート	13.7	7	23,232	20

公共交通は日常生活における重要な移動手段です。だれでも自由に移動でき、社会生活をおくることや、高齢者の外出を支援する福祉施策としても大変重要な施策です。交通空白地域解消のためのデマンド交通の導入も必要と考えます。また、コミュニティバスの国際医療福祉大学病院への乗り入れについても引き続き要望し、公共交通の維持及び充実が図られるよう取組みます。



すべての市立学校に空気調和設備を整備

児童生徒の熱中症対策として、昨年度整備した中学校7校及び義務教育学校1校に引き続き、遠山小学校外15校の屋内運動場等に空気調和設備を整備し、リース期間満了後に無償譲渡を受け、当該設備を取得します。

取得する空気調和設備はスポット型の空気調和設備が92台、一般型の空気調和設備が2台、合計94台となります。取得日は空気調和設備スポット型のうち48台および空気調和設備一般型が令和13年4月1日、空気調和設備スポット型のうち44台は令和13年9月1日を予定しております。

今回の契約では、現在、未設置の小・中義務教育学校（前期課程）18校のうち、16校への整備を行うこととなります。今後につきましては、長寿命化工事や改築工事を控えている遠山中学校及び成田小学校の整備を行う予定であり、これにより、すべての学校の体育館に空調機が整備されることとなります。



成田の実情にあった宿泊税の使途を考える

現在、千葉県において宿泊税の導入について検討が進められていますが、本市では有識者懇談会を設置し、県宿泊税への上乗せ課税について検討し、本市独自の課税は必要であるとの見解が示されました。今後、本市では、具体的な課税要件の決定に向け、千葉県や導入を検討する県内市町村と協議を進めていくものと思われますが、未だ、千葉



県から宿泊税の導入に向けた具体的なスケジュールが示されておらず、また、県が示した県内市町村へ配分される交付金の使途の案は自由度が低く、各市町村が地域の実情に沿った施策を展開できるよう再検討の余地があります。以上のことから、千葉県による宿泊税導入において、県内市町村との調整を求める意見書を千葉県に提出しました。

市民の安全のために救急体制の強化

成田消防署に配備している、はしご付消防自動車が購入から20年を経過し、車両の老朽化及び機能の低下が著しいことから、はしご付消防自動車を購入し、消防体制の充実強化を図ります。更新にあたり、31m以上の高層建築物の設備等に関する設置基準を考慮したうえで、今後の消防活動に必要な機能を検討し35mの先端屈折機能を有した、はしご付消防自動車を整備します。

- 消防本部で運用している、消防救急デジタル無線が購入から12年を経過し、経年劣化により機能の低下があることに加え、機器の部品製造が中止され、保守が困難であるため、各装置を購入し消防体制の充実強化を図ります。
- 赤坂消防署、公津分署に配備している、高規格救急自動車が購入から8年が経過し、車両の老朽化により走行性能等に低下がみられることから、新たに高規格救急自動車を購入し救急体制の強化を図ります。



定額減税補足給付金が支給されます！

令和6年度に実施した、所得税・個人住民税所得割の定額減税を十分に受けられないと見込まれる納税義務者に支給した定額減税調整給付金（当初調整給付）の算定の際に、令和5年所得等を基にした推計額を用いて算定したことなどにより、本来支給すべき所要額と当初調整給付額との間で差額が生じた方及び定額減税対象外であったが支給の必要がある方に対し、定額減税補足給付金を支給します。

令和7年度定額減税補足納付金の対象者及び支給額（見込み）

R6調整 給付対象	不足額給付 I			R6.1.2～ 転入者	合計		
	R6給付対象外						
	住民税 無 推計所 無	住民税 有 推計所 有					
対象者数	4,515人	5,101人	5,505人	720人	1,285人	17,126人	
給付金額	89,590千円	147,130千円	167,770千円	21,378千円	51,400千円	477,268千円	
給付金額 (平均)	19,843円	28,843円	30,476円	29,691円	40,000円	27,868円	

支給スケジュール	6月中	予算の議決（6月定例会（追加補正）） 電算処理委託、コールセンター・事務受付業務委託
	8月1日	『広報なりた』で周知 市ホームページで周知
	8月上 ～中旬	調整給付金に関するお知らせの発送・コールセンターおよび特設窓口の開設 (確認書、申請書および申請書（転入者用）の受付開始)
	8月末	初回支給
	10月31日	確認書等の受付完了
	11月28日	審査事務および支給手続きの完了

イオンモール周辺の冠水被害を解決！（国道408号冠水工事）

近年、ゲリラ豪雨などの頻発化により、豪雨時の道路冠水対策が課題となっており、議会でも何度も取り上げてまいりました。

国道408号のウイング土屋地区周辺においても令和元年6月の豪雨により大規模な道路冠水が発生したほか、車両通行の支障となる豪雨時の道路冠水が常態化しており、至急の対策が求められる状況でしたが、令和4年度より、市の下水道課により道路冠水緩和のための雨水管バイパス工事が進められ、本年1月に完成しました。



この工事により、イオンモール周辺に集中していた雨水が分散され、国道408号のウイング土屋地区周辺の道路冠水が緩和されるとともに、雨水管上流部の成田市文化会館付近の冠水被害も同時に緩和されるものと期待しております。また、国道408号の管理者である、千葉県成田土木事務所においても、道路パトロールにより道路側溝の詰まりや道路施設の適切な維持管理に努めていることです。今後も降雨時の道路状況を注視し、安全安心なまちづくりのための必要な提言を行ってまいります。